

生物化学的測定研究会 第19回学術集会プログラム(案)

「食品衛生を巡る生物化学的測定;Mycotoxin and Marintoxin」

食の安全を脅かす物質は多数存在するが、近年地球温暖化の影響もあり、カビが産生するカビ毒(Mycotoxin)および魚貝毒(Marintoxin)への関心が高まっている。これらの物質は藻やカビなどの微生物が作り出す化学物質であり、Biotoxinともいえる。従来 Biotoxin の検出には、細胞や動物を用いた検出法や理化学的分析法が用いられてきたが、近年のイムノアッセイをはじめとする生物化学的測定(バイオ分析)の飛躍的発展とともに、種々の手法が開発され、実用化されてきている。

本学術集会では、分析対象に Mycotoxin と Marintoxin に焦点をあて、国際基準から現在汎用されているバイオ分析およびアプタマーへの応用技術までを5人の講師をお招きし、ご講演を拝聴する。食品衛生の現状の理解に役立てば幸いである。なお、学術集会に先立って、当研究会の年次総会(13:00~13:20)を開催しますので、会員の方々は合わせてご参加願います。

■ 期日 : 2014年(平成26年)6月6日(金) 13:00~17:10

■ 場所 : 麻布大学 獣医学部棟7階会議室(神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71)

■ プログラム :

総会(13:00~13:20)

開会の挨拶(13:20) 学術集会長 小西 良子(麻生大学 生命・環境科学部 教授)

講演

1. 世界のかび毒および魚貝毒に対する規制;コーデックス委員会を中心に(13:20~14:00)
国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部 登田 美桜
2. 日本の魚貝毒規制と検査法開発;抗体およびファンクショナルアッセイ(14:00~14:40)
国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部 第2室長 大城 直雅
3. 抗体を用いた麻痺性貝毒の測定法の導入と実用化(14:40~15:20)
熊本県南広域本部 農林水産部水産課 篠崎 貴史

休憩(15:20~15:40)

4. カビ毒パツリンに対する核酸アプタマーの開発(15:40~16:10)
キリン株式会社 基盤技術研究所 森田 悠治
5. 日本のかび毒規制と簡易迅速法の今(16:10~16:40)
麻布大学 生命・環境科学部 食品生命科学科 小西 良子

総合討論・総活(16:40~17:10)

閉会の挨拶(17:10) 研究会会長 小林 典弘(神戸薬科大学 教授)

情報交換会(17:30~19:30)

■ **参加費** : 会員 3,000 円(要旨集込み)、非会員 5,000 円(要旨集込み)、学生;無料(要旨集 2,000 円)
情報交換会費:5,000 円

*参加費は当日受付でお支払い下さい

■ **参加申込** :

参加申込は、FAX(0438-62-5209)又は E-mail (basj@scas.co.jp) にて、「第 19 回学術集会参加申込」と記入して、①氏名(フリガナ)、②連絡先(勤務先、郵便番号、住所、電話、FAX、E-mail)、③会員種別、④要旨集要否、⑤情報交換会参加有無、を下記までお申し込み下さい。研究会ホームページ(<http://www.basj.info/>)からも申込が可能です。

■ **アクセス** : J R 横浜線 矢部駅北口より徒歩 4 分
(神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71)
<http://www.azabu-u.ac.jp/other/access.html>

■ **問合せ** : 生物化学的測定研究会事務局(担当:山田)
〒299-0266 千葉県袖ヶ浦市北袖 9-1
株式会社住化分析センター 千葉営業部内
TEL:0438-64-2281 FAX:0438-62-5209
E-mail : basj@scas.co.jp
HP: <http://www.basj.info/>